

## OPAM教育普及 出前ワークショップ

### A 時間と場所に出会う・体感型ワークショップ

身体を動かし、感覚と感性を活性化。空間や素材、色を身体で感じます。

### B 素材に触る・工作ワークショップ

いろいろな素材に触りながら、色や形の面白さと出会います。想像力と創造力を刺激します。

### C 鑑賞ワークショップ

視覚と触覚で、OPAM教育普及の教材《Hands on Works》を楽しみます。

### D 絵の具ワークショップ

にじみ、ぼかし、かすれた感じなど、絵の具の表情を楽しみます。  
また高学年では、身近な石や土から絵の具をつくります。

ここでは、過去に行ったワークショップの例を紹介します。

#### 体感型ワークショップ／ふわもこ



揺らした布の上を転げまわると、まるで雲の上にいるよう。みんなで呼吸を合わせて膨らませると、まるでお餅のよう。

布と空気と戯れるワークショップで、園児から高校生まで、いくつになっても大人気なプログラムです。

#### 体感型ワークショップ／ピカぱた



ロールのアルミ箔 30M を丸ごと使います。広げるだけでも大歓声。そっと持ち上げるとカサカサ音がし、頭上に掲げてサッと離れると、ゆっくり落ちます。握って形をつくる造形遊びや、千切って団扇で扇いでキラキラさせることも行います。

### ワークショップ／未来のお家



こんな家があったら面白い？ 空想して描かれた建築から、実際にある面白い建築や個性的な建築までを紹介した後に、OPAM特製工作キット「建築弁当」を使って、住んでみたい夢の家や街を作りました。

### ワークショップ／ドバラシャー



「飛び出す絵本」の仕掛けをベースに、花束のようなカードを作ります。開くとドバッと花が飛び出すので、「ドバラシャー」と名づけました。

### 鑑賞ワークショップ／命のカタチ



近所を散歩して、花や葉っぱ、木の実など、身近な植物を集めて観察することから始めます。そして中井川由季さん、青木美歌さんの作品を視覚と触覚で鑑賞します。さらに命のカタチをテーマに作品をつくり、一緒に並べて鑑賞しました。

### 鑑賞ワークショップ／佐野藍・幻獣



鑑賞ワークショップで持って行く作品には、大分県の木や石を素材にしたり、風景を作品の一部に取り入れたり、歴史や文化をモチーフにしたものなどがあります。例えば、彫刻家、佐野藍さんの作品「幻獣（ドラゴン）」。今にも動き出しそうで、持ってみるとずっしり重く、石を彫ってつくられたことが実感できます。



## 絵の具ワークショップ 静かなるアクションペインティング



寝っ転がれる白い大きな紙は、広げただけで大喜び。ダイナミックに手足を使ったり、静かに絵の具が流れる様を見守ったりなど、絵の具をたっぷり使います。

注) 汚れます。

## 絵の具ワークショップ ザ・ピグメント



絵の具は石からできている。身近なところに落ちている石を、ハンマーで砕いて乳鉢を使ってすり潰します。紗幕に通すとパウダー状の絵の具の元、顔料の出来上がり。膠を混ぜて、絵を描きます。時間があれば、絵の具となる代表的な鉱物も紹介します。

注) 但し、このワークショップは小学4年生以上25名以下が対象となります。





令和5年度の大分県立美術館・教育普及のワークショップは、「びじゅつって、すげえ！2023-2024」に掲載されています。子どもたちが楽しく活動する写真から雰囲気を感じていただけます。ぜひ、ご覧ください。

※下の写真は、今まで実施してきたワークショップの様子です。

